

和道流空手道連盟常任顧問・和道流8段・和道流技術審議員補

原島 博先生

におかれましては、去る5月1日 ご逝去されました。

原島先生は、寺尾友空会でお弟子さんの指導に当たられたほか、和道流技術審議員補、昇段審査員をお務めになられるなど、和道流空手道連盟の発展に大きく寄与されて来られました。

また、和道流空手道連盟のご意見番として、二代宗家急逝の折などには、若手指導者に対して適切なアドバイスをいただくなど、三代宗家承継への適切な道筋をお示しになられ、和道流の新しい船出に対する水先案内人とも言える方でした。

ここに謹んで哀悼の誠をささげますとともに、先生のご冥福をお祈り申し上げます。

葬儀等につきましては、ご家族でお済ませになられたそうです。

このたび、和道流空手道連盟寺尾友空会を継がれた、金井周二先生から弔文が寄せられましたので、全文をそのまま掲載させていただきます

合掌

☆☆

弔文

原島先生ご逝去に接し、誠に残念でなりません。

年齢を感じさせない姿勢の良さに、ジーンズと頭にはキャップの出で立ちで颯爽と道場に現れる姿は、何とも若々しく格好が良かったです。

普段からはきはきと言う語り口でしたが、稽古中は更に声が張り、道場中に叱咤激励が常に飛びかっていたました。

子供達には「空手に先手なし。だから基本の平安の形は全て受けから始まるんだ」と教え、「空手は相手を殴るものではない。自分を守るためのものだ」と言うのですが、いざ稽古となると「先に手を出せ。それじゃ相手は倒れない」などと言われるもので、

子供達が困惑する場面が幾度となくありました。

先生は「和道流は体捌きだ。流し、往し、乗り、反り、弾き、撥ね、捌きを意識しなさい」と常に言われ、直線的で先取りの試合が主流の中でも、組手は直線ではなく、円の動きになるよう、しつこく体捌きの稽古をさせられました。

先生は杖道でも達人でした。一振り頂き、基本を教わる中で、中段に構え、先生が上段より振り下ろすのを耐えるのですが、はるかに年上で、パワーでは負けるわけがないはずなのに、何度も叩き落され、逆に打ち込むと、先生の中段の構えは崩れることがありませんでした。

コツを聞くと「力まず、素早く、軸を崩さず極める。空手を同じだよ」と諭され、技の奥深さに感銘を受けたのを思い出されます。

また、先生が杖道を始めたは、空手の体捌きを会得するには杖道がよいと、流祖に勧められたのがきっかけなんだと、大事な秘密でも明かすが如く、耳元でひょうきんに、何処となく得意満面の笑みで話して頂いたのも思い出です。

昇級審査において、習い始めた頃からの長所短所や今後の努力目標、上手になるためには何が必要か、分かりやすく教えるにはどうすべきかなど、詳細に記録した生徒一人一人の資料を見せられたときは、先生の細部に至るまでの思いやりと生真面目さに驚かされもしました。

今にして思えば、先生が若かりし頃から培ってきた和道流を、そのまま忠実に教えて頂いたのではないかを感じています。

空手を通じ、たくさんの事を教えて頂き、また、残しても頂きました。先生の教えを守りながら、体現できるよう、また、後進に受け継いでもらえるよう、精進して行かねばと思っています。

謹んで原島博先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

寺尾友空会支部 原島先生門下 代表 金井 周二